



# 中部人懇だより

令和6年度 第4号  
令和6年12月発行  
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。半世紀以上の歴史ある会です。

「中部人懇」って  
こんな会です!



令和6年11月16日(土)に、PTA 会員、行政関係者の方を対象(参加者36名)として、第4回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

## 【講義】

「差別の今」～部落差別の現実を知る～  
部落解放同盟中部地区協議会  
下吉 真二 事務局長



現在、部落差別に関して問題となっていることについて、具体的に分かりやすくお話をいただきました。先月、倉吉市内の研修会アンケートで賤称語を使った回答があったことを冒頭に紹介されました。インターネット上に部落差別を扇動する情報が、法規制がないことによって削除されずに残り続けている状況、その情報によって部落差別につながる印刷物を高校生がメルカリで販売したことが発覚した事案など、具体的に現在起きている事例について、時にユーモアを交えながら伝えていただきました。

会の最後には、「部落差別の問題をタブーにしたらいいん!」と力強い口調で訴えられ、部落差別をなくすための取組の大切さ、大人も学び続けることの大切さについて、強く実感した時間となりました。

## グループ協議より

◆講義をとおして感じたこと、今後どのように活かしていくのか、各所属で取り組んでいきたいこと

- ・普段、同和問題に関わることが少ない。話を聞いて、いろいろな形で部落差別があることが分かった。
- ・差別は身近にあると感じた。子どもたちも正しく知り、差別をしない子に育てていくことが大切。
- ・PTAの人権講演会は参加者が減ってきている。人が来やすいように工夫していきたい。
- ・町内学習会の参加率の低下は、まずは自分が参加することからはじめたい。
- ・子どもが大人になってから同和問題を知るよりも、子どものうちに、さらに親も一緒に学べる研修の機会を作ることができたらいい。
- ・子どもたちの中でもいじめ、仲間外しがある。それらに向き合い、解決していく中で、一人ひとりを大切に育てていきたい。
- ・子どもの鏡である大人が、一人ひとりを大切にすることから始めたい。



## 参加者の振り返り(一部)

- 同和問題についてのお話を伺ったのが久しぶりでした。今、人権学習は多様になっており、様々な角度から学習を深めることは良いことではあると思いますが、同和問題から目を背けてはいけません。同和問題の今を正しく学ぶ必要性を感じた講演でした。
- 最近、人権教育もテーマが多い中で、同和問題について学ぶ機会が減ってきたように感じます。小学校でも学んでいない中、家庭でどのような話ができるのか。また、保護者研修会でも参加者を増やす取組を考えていかなければならないと思いました。
- このところ同和問題を取り上げる学習が少なくなってきた感じがあるので、人ごとにせず、自分事として考えるためにも、そして部落差別を無くしていくためにも考え続けたい。
- とにかく知らないことが多かった。部落差別が現在もあり、またネット上にもあることに驚いた。ネットでどんどん拡散され、子どもも見ることがあると思う。子どもには同和問題について正しく理解してほしい。
- 偏見や差別をなくすために人権学習の機会を提供しても、大人になると、本人にその意思がなければ研修に参加してもらうこと自体が難しいので、子どもの時の学校や家庭での教育が大切だと感じた。まだ具体的ではないが、行政側として、学校・文化センターと連携した同和問題学習の取り組みを進めていきたい。

今回の懇談会をきっかけに、PTA・地域・学校・行政が一体となって同和問題について、共に学んでいきたいです。

